

No.3

下野市立石橋中学校



# 校長室だより

スローガン ～生徒も先生も、自ら輝く学校～

学校教育ビジョン

『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成  
キーワード「自立・貢献・創造」

令和4年4月25日（月）

発行者 田熊利光



石中ホームページQRコード

## 学校開放日 「授業参観・懇談会」お世話になりました。

4月20日(水)の学校開放日では、授業参観・懇談会にご参加いただきましてありがとうございました。授業参観アンケートにも63名の方からご回答をいただきました。アンケート内容と結果は下の通りでした。

評価→「A」そう思う 「B」ややそう思う 「C」あまり思わない 「D」思わない

### (1)先生は、生徒のやる気の起こる授業を行っている。

結果 「A」46人 「B」17人 「C」0人 「D」0人

### (2)先生と生徒の間に温かい人間関係がつけられている

結果 「A」46人 「B」17人 「C」0人 「D」0人

### (3)生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる。

結果 「A」47人 「B」16人 「C」0人 「D」0人

### (4)生徒は、よく挨拶をしている。

結果 「A」42人 「B」21人 「C」0人 「D」0人

### (5)校舎は、安全面の配慮がなされている。

結果 「A」42人 「B」21人 「C」0人 「D」0人

### (1年生の保護者様より)

- ・どの教科も、グループごとに話し合いなどをして、意見交換をしていて、自分の意見を相手に伝えることができ、とてもよいと思った。
- ・体育の授業を参観させていただきました。先生方の指導、子どもたちの反応が、とても清々しい気持ちになりました。こうやって、先月まで小学生だった子どもたちが、中学生らしくなっていくのだと感じました。運動会でのラジオ体操や集団行動を楽しみにしています。毎日学校が楽しいと言っています。どうぞ、先生方ご指導よろしくお願い致します。
- ・入学後まだ日が浅いので、関係構築はこれからだと思いますが、よい環境で取り組んでいることが感じられました。
- ・子どものやる気を引き出すよい授業だと思いました。
- ・先生の声は後ろの席まで届き、活気あふれる授業で楽しそうでした。安心して授業に取り組んでいるように見えました。

### (2年生の保護者様より)

- ・英語と数学を参観致しましたが、とても活気あふれた授業で子どもたちも楽しそうに活発に参加していて、良い先生方に受け持っていただけたと有り難く思いました。教材も生徒たちを惹きつける魅力的なもので本当に楽しい授業でした。メリハリもよくきいていてすばしかったです。これからもよろしくご指導の程お願い致します。
- ・社会の授業では、先生が分かりやすく説明していて良かった。英語の授業では、和やかな雰囲気でも楽しそうだった。
- ・先生の人柄がとても良かったです。クラスも明るくて安心しました。窓側の日焼けが気になりました。
- ・先生と生徒の距離感が近くて安心しました。

### (3年生の保護者様より)

- ・沢山の生徒が元気に、そして丁寧にあいさつしてくれたので感動した。
- ・生徒の皆さんがとてもよく挨拶をしてくれてすばしかったです。5校時の授業を参観させていただき、プレゼン資料をタブレットを使って、上手に作成し、しっかり発表している姿に感心しました。クイズ形式や保護者にも質問を投げかけてくれて楽しめました。中学3年生ともなると、ここまでできるのだなと成長を感じました。クラス替えしたばかりですが、クラスの雰囲気もとても良く先生方の明るく温かなご指導に感謝しております。久しぶりの授業参観・懇談会の機会があり良かったです。ありがとうございました。

# 「学び合いの授業」についての解説

今、全国的に「**主体的・対話的で深い学び**」を目指した授業改革が行われています。石橋中学校では、新学習指導要領の改訂以前から、**東京大学名誉教授、佐藤学先生の「学びの共同体の理念」**に基づく**学び合い学習**を進めており、グループ学習が定着しています。

一人では解決できない課題を**仲間との「協働と対話」**で解決します。一人ではできなくても、仲間の支えがあれば、高い山の山頂に立つことができるということです。仲間とできたことは、やがて一人でもできるようになります。このことを発見したのは、レフ・ヴィゴツキーという教育学者です。今から百年も前の人ですが、既に100年後の教育を予見していた人です。彼のこの理論を「**発達の最近接領域**」と呼びます。例を示せば、自転車乗りです。補助なし自転車を初めから乗れた人はいないはずで、親の補助・支えがあって、何度も倒れそうになりながら練習し、やがて支えがなくても一人でも乗れるようになったはずで、仲間と頑張ればなんとかできる高めの課題に挑戦する理由は、**皆さんの明日の発達を促し、一人ではできなかった課題を一人でもできるようにするため**です。逆に言えば、一人でもできるような難易度の低い課題を繰り返しても、皆さんのレベルは上がりません。**私たち人間が成長するには、少し難易度の高いことに挑戦することが大事**なのです。

部活動でたとえば、地区大会で勝ちたいと考えて練習しているチームと、全国優勝を目指しているチーム(高いゴールイメージを持っているチーム)では、練習への意識が全く違いますから、結果も大きな差がつくということです。学習も高いゴールイメージを持って、「**挑戦する学び**」により**レベルアップ**するのです。

ハードル高めの課題＝「社会問題を先取りしている課題・皆さんの疑問から出た課題・できそうでできない知的好奇心を揺さぶるような課題・教科の本質に迫るような課題」を解決するために必要なのは、**仲間との「協働と対話」**です。教科によって課題は異なりますが、応用問題を仲間と共に解決する過程で、**自然に対話(自己との対話・仲間との対話・教科書や先人との対話)**が生まれ、**仲間の多様な考えに触れて、自分の思考も深まります**。発展的な課題を解くことで、必然的に基本と応用を行ったり来たりする学びが生まれます。その結果、基礎・基本の定着も図られることとなります。

**学びの基本は「聴く」**です。「目と耳と心」を相手に向けて、友達の話をしっかり聴いて、自分の意見を構築します。「**真剣に聴き合う関係**」ができているクラスは、**間違いなく学力が向上**します。また、**真剣に仲間と対話して考えることで、思考力が高まり、「書く力」も向上**します。私の経験では、国語の「授業記録」を、A4レポート用紙20枚も書いた生徒がいました。クラス平均でも5枚程度の授業記録を書き上げる力が付きます。これは大学生レベルです。こうなると、「高校入試の作文や読解問題は簡単です」と言って来る生徒がたくさん出てきます。

**学び合い学習の大切な作法**は、分からないときは「**分からないから教えて**」と言うことです。将来、皆さんが社会に出たら分かりますが、仕事をしていて分からないことに出会うことがたくさんあります。その時に、一人で悩んでいたら解決できません。そんな時、「分からないから教えてください。」と謙虚な姿勢で人に聞ければ解決できます。つまり、「**人を頼れる人間は自立できる**」ということです。だから、分からないときは恥ずかしがらず人に聞くことが大切です。「**学びの本質は謙虚さ**」であること忘れないでください。

また、**聞かれた人は、その人が分かるように丁寧に教える**ことも大切な作法です。学習の定着率を上げるのに何が有効かを調べた研究があります。それによると、人に教えることが最も大きな効果があることが分かっています。つまり、「**インプットしたことをアウトプット**する」ことが記憶の定着には重要なのです。しかも、「**相手が分かるように**」という意識が「**学び直し**」になり、自分の**知識や技能の確実な定着**につながります。だから教える人も得、教えられる人も得なのです。これを「**互恵的な学び**」と呼びます。ポイントは **仲間との信頼関係**です。**間違っただけ言われ、何でも言い合える安心感**がクラスにあるかどうかポイントです。皆さんのクラスはこの「**温かい関係**」が築かれていますか。**一人残らず大切にされ、誰も一人にしない。お互いを認め合い、励まし合い、男女の壁もない「共に高め合う仲間」という意識を大切に**しましょう。

## （社会の変化と教育の変化）

一昔前は「消費社会」と言われました。マニュアル通りに正確にできる能力が大切でした。先生の役割は**インストラクター（教える人）**でした。先生が板書したことを、生徒はノートに写す。一斉授業と言われるスタイルで、効率よく知識を伝えることが大事でした。（現在でも基礎・基本を抑える場面では一斉授業スタイルはあります）

今は、「情報社会」です。様々な知識・情報は一瞬で手に入ります。大切なのは、知識・情報を正しく捉え、判断し、自分なりの考えを持ち、情報を使いこなす**「情報操作能力」**です。また、これからは予測困難な社会で、一人では解決できない課題を仲間と共に解決していくことが大切です。だから授業でも「協働と対話」が大切なのです。今、求められている先生の役割は**「ファシリテーター」（話をまとめる人）**です。仲間との情報のやり取りや対話を通して、考えが深まり、**新たな視点を獲得**できるよう、先生は、「つなぎ役」になります。それは高い山を登って行くイメージです。先生は諦めかけている人を励ましたり、そっと背中を押したり、ヒントを出したり、仲間とつないだりして、一人では到達できない高い山の頂上に立つための**「足場を掛ける」**わけです。仲間たちと山頂に立って見える景色は、今までと違う素晴らしい景色です。これが**「新たな視点の獲得・新たな価値の創造」**と言われることです。

では、その先の未来はどうなるかという**「創造社会」**になると言われています。今までになかったものやことを創造していく社会です。そんな時代を生き抜くのに必要なのは**「自分で未来を創造する力」**です。先生の役割は**「ジェネレーター」（生成する人）**になると言われています。別の言い方をすれば**「生き方を通して在り方を示す存在・自らの探究心で、周囲に影響を与え、探究する場を生成する人」**に変わります。何かを創造する過程で様々なことを学ぶ教育が大事になると言われています

いずれにしても、学校の授業や行事の主役は生徒の皆さんです！

皆さんが全面に出て主体的に活躍することを期待しています。

是非、皆さんには、**「未来は自分で切り開くんだ！」**という**気概**を持って欲しいと思います。

夢や目標を持って、それを形にできる**「自立型人間」**を目指しましょう。

そのための力を今から付けていきましょう。